

夏ノ八表

おぼろけならぬ雲の波へなみけふかのなみをしの
ぎて笙へしやうの岩へいはやにこもりたりければ
平等院へうどうるんのもらぬ岩やも袖はぬれけり
ときよまけん思る出て

露もらぬいはやも袖はぬれけりと

きかずはいかにあやしからへし

那智へなちにまいりて瀧入道へたきにうだうし侍りけり
に一二の瀧へたきおはしますそれへ参り侍る

と部常住へじやうぢうの僧へそうの侍りけるにぐして